

TALK OF KOBE

街のおしゃべりへ5

え・榎 忠



中 山手一丁目、日石ガソリンスタンドの山側に「ここ

はゴミ捨て場ではありません。ゴミを捨てると清掃法・軽犯罪法で罰せられます」という大きな立看板が二つこれ見よがしに立っている。そしてその前に、皮肉にもビニールづつみのゴミの山がどっさり。こういう光景はあちこちで見うけられるが、無断で街の中にゴミを捨てるとどうなるか？



ゴミを捨てないでやる／

市の清掃局に問い合わせると、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、原則として五万円以下の罰金が課せられるのと。もともとこれは心理的な抑制で、実際に罰金をとられる例は少

ないそうだが、それにしても立看板の前にまでポイポイ気安くゴミを捨てる図太い神経にはあきれかえる。ところでグリーン作戦展開中の神戸市だが神戸市全体で、家庭から出る一日のゴミの量は八九一トンもある。四百五十台の清掃車が毎日フルに走り回り妙賀山、脇浜、荻藻島の三清掃工場と長尾山で焼却、埋立しているものの、年々ゴミの量は増える一方。

神戸市では四年前から、町をきれいにしようと呼びかける仲間、ゴミをキチンとかたづけることのできる仲間、そんな人達を増やし、神戸を住みよい美しい町にするために毎月五日を「町をきれいにする日」と定め、ゴミの清掃に努力しているが、そんな日があることを知っている人は何人いるだろうか。

「欧米ではどこにもチリひとつ落ちておらず実にきれいだ」とは旅行者からよく聞く話だが、ヨーロッパの街角を歩いてみると、アルプス以北のゲルマン諸国では道路も公園も確かにきれいだ。しかし、イタリア、スペインあたりのラテン系国家になると、街中ゴミだらけ、といっちはいいすきかもしれないが、まあ日本といひ勝負とあったところ。

「ゴミがある方が生活の臭いがする」とある日本人は言ったが、南ヨーロッパを旅する日本人はさぞかし故国の郷愁を感じることだろう。

ここで骨身にしみるゴミの実話の一つ。

三年程前の夏、日本の登山隊がスイスのアイガー北壁直登に成功するという快挙を成し就げたのを憶えておられる方は多いだろう。その時、私はたまたま登山隊のベースキャンプの近くにいたので、彼らを訪問する機会もあった。キャンプから数百メートルの所まで近づくと、あたりの草むらにはチリ紙が点々と捨てられている。誰の目にもそれは用を足した時のあとであるのが明らかだった。目も覚めればかりの雄大な自然のふところ、のんびりと用を足すのは実に爽快な気分であろうが、彼らはなぜそのあとで、チリ紙を集めて焼却するなり、埋めるなどの処置をしなかったのか。登山電車の駅からそう遠くないので、地元民や観光客もよく応援にかけつけた。そして散乱するチリ紙に顔をしかめた。案の定、日本隊は非難を浴び、日本の新聞にも投書がよせられた。アイガー北壁直登という輝かしい快挙も、ちょっとしたチリ紙の始末ができなかったばかりに、思わぬ結果を生んだある日本人の知られざる実話である。

「たかがゴミぐらいいで……」といって、ユメユメ油断するなかれ。

それにしても街の中のなげやりなゴミの山、あれ何とかなりませんかネ。

春

から夏にかけて、神戸港には多くの観光船が入港する。街を歩く各国の観光客の姿は神戸ならではの風物詩でもある。年老いて、腕を組み、仲よく寄り添って歩く老夫婦の姿は、はた目からみると実にいいもの。ところが、夫婦連れで神戸にやってきたある老年の紳士が妻のいないすきにそっとささやいた——「日本の男性はいいねえ。一人で遊んでまわって……」。

なるほど、なるほど、しわくちやの太った婆さんにガツチリスクラムを組まれていてはどうにも動きがとれまい。

黒髪を風になびかせ、ミニスカートで闊歩する東洋の



自由な街の自由なまつり?

もなさそうだよ、日本の男性諸君!

とかく、男心もフクザツよ。

今

や平家ブームで、神戸の平家ゆかりの史跡は押せや押せやの大盛況。

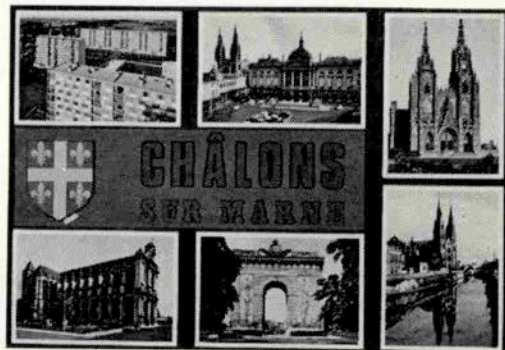
このブームに便乗して、「平家物語史跡めぐり」なるバスツアーがこの三月から神戸にお目みえした。

十数カ所の市内の史跡を、ガイドの説明に耳を傾けながら見物し、生田神社では筑前琵琶を、須磨寺では一絃琴を鑑賞、さらに生田白拍子の舞も楽しめるといったバラエティに豊んだバスツアー。この際、地元の隠れた平家の史跡を改めて見なおしてみるのが一興があるので。

期間は九月末まで。毎土曜日十二時三〇分交通センタービル前発。大人一五〇〇円、小人一三〇〇円也。

カワイコちゃんをちらりと横目でながめながら、この紳士の顔にはあせりとなかばあきらめの色が漂っていた。

青春よ、もう一度、というわけでもあるまいが、街角でみかける外人夫婦の仲のよさをそううらやむこと



★フランソワ・サストゥール君の

神戸居候 日記〈下〉

私が見聞きした日本の事柄すべてに関して（特に私が
いおうとしている人の問題に関して）批評することは私
には出来そうにもない。しかし私は、ある面では日本の
男性達は仕事に堪え、きびしい表情をしているという印
象を受けた。今からふり返って思いなおしてもそういう
印象に変りはない。

この批評は多少きついかも知れないが、絶対に必要な
ことだと私は思う。でも何度か日本の人の家庭に招かれ
て大いに歓迎され、親切にもらったことを私はここ
で感謝したい。私がいろいろな所に足を踏み入れる度に
日本の皆さんに心から歓迎していただいたこと——それ
は、ヨーロッパ人にとっては、歓迎されたり、やさしく
してもらうことは、かえって少々苦痛で心苦しくさえあ
るものです。私はしばしば次のようなこと故、苦しまな
ければいけないことがありました。というのは、言葉が
うまくしゃべれないのでいつも、歓迎される時や又別
れの時など、とんまなことをいっていたということを、
あとになって気がつくのです。

それから、日本人は知り合うとかならず、私の名前や

年令や職業は何かと聞いてくるのです。これらの質問に
関して私自身はちっとも気にならなかったのですが、少
々驚いたことは確かです。私の年（二十一才ですが）を
いうと皆半信半疑の表情で「若すぎる」とか「若いの
に」と口々につぶやく。それはあたかも私自身五才位の
坊やで、よその土地では分別がつかないかのごとくに扱
うのでした。一人で旅行をしていると他の旅行者のこ
とに目がとまります。彼らは何人かでグループを組み、そ
の中には、リーダーがいて、色とりどりの小旗を手にし
ています。ある場所に着ては立止まり、声をあげ、うま
く説明ができる様態命に頑張っている。私の知っている
人達はたいてい、私の翌日の行動又は翌々日の行動まで
をわざわざたずねようとする。そんな時は、たいてい、
「さあ、どうなるかな？ とにかく私には予定が無いん
だし自由の身だから、明日はどうなるかわからないさ」
と返事して、彼らを驚ろかせたものです。

私が考えるところによると、日本人はとても条件づけ
が好きで、旅行に関してはすべてが組織化され、グルー
プのために企画され、良き案内の役目を果しているよう

だ。つまり、表面的には分からないが、すべて事が円滑に運ばれるようになっていくのです。

現在、むづかしい問題に直面しているのですが、それはとても興味があることなのです。それは日本の女性のことです。もし日本女性が魅力的だとするならば、それは、ヨーロッパ女性とは少々違った面があるからです。はつきりいつてそれは身体的な相違です。

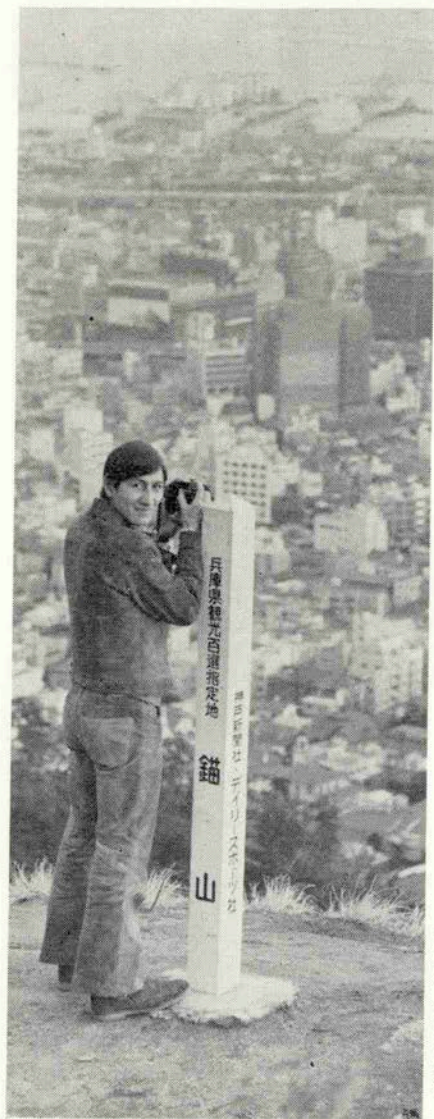
私は日本女性の瞳が大好きです。糸のような細い目はとても黒く、ほほえんでいて魅力的です。ヨーロッパ人にとって不思議に思えることは、日本女性はきつと東洋（オリエント）の神秘を反映しているのでしょうか。その神秘とは正直にいつて、細かく気の付く点で魅かれていくことなのでしょう。感情を余り外に出さず、いわば魅力をもたらず測り知れない秘密なのではないでしょうか。

次に、日本女性の素晴らしくて可愛い鼻のことについていうならば、その鼻は少々反抗的で、時には軽く少し上を向いていて「ハ・ナ」と二語で呼んでいるところが、とても面白い。また、官能的な口元はいつもほほえんでいるように見え、そしていつも何か親切さとやさしさを示すためなのか、ちょっぴり、開き気味なのです。女性の顔を飾る長くて黒い髪の毛は本当に素敵だった。この黒い

髪は日本女性の顔の可愛い、表情をより強く表わしているように思う。私の見た感じでは一般的に女性は、小さな体で大変簡素に服を着こなしているように見える。そして外観的には弱々しくみえるが、かえってそれが魅力となって魅きつけているとも思える。だから女性にいろんな男性はすぐにエスコートしたいと申し出るはずです。チェンバレンの書いた「日本事情」の中で「ニッポン女性は弱々しくみえるがゆえに逆にそれが非常な魅力となっている」とのべている。

最初に強調したかったこの「女らしさ」は、ちょっとした動き、身振り、ほほえみ、話しの口調の中に、何度も見つけたことができる。

日本の女性に因ってこれですべてお話したはずですが、私の見聞きした範囲ではまだ充分でないかも知れません。それ故、このテーマを終えるに当り Ludvie Navedau（ルドビ・ノデュー）著「近代日本」から一文引用してみると、「日本人を、順応性に富んだ愛すべき創造者とするならば、ヨーロッパ人はかどがあり、へんこつで、気取り屋で少々攻撃的な面をもっている」といえるでしょうか。

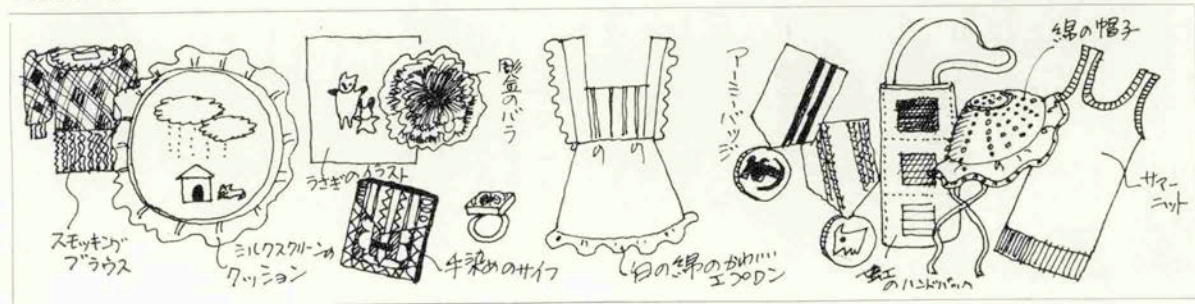


△鶴山にてフランソワ君

Green Apple's Page

グリーンアップルズストリート TOPICS

神戸まつり
オリジナルバザール



● 千円つかんで来て下さい。(百円でも可)

お日様がボカボカ暖ったかい5月の行事神戸まつりはウキウキ・ワイワイの楽しいカーニバル。

グリーンアップルズページも噴水公園の青年広場でグリーンアップルズストリートを開きます。

ハーマニカ吹きやら、寸劇やら飛び入りのショーなんかもある様子。知らない人々が集まってここで友達になって賭け主義じゃない自分の作品売って又知らない人がそれを買っていつて知り合いになれたらいいナーという訳。ひょっとしたらとても気のきいたプレゼントもあるかもしれません。オリジナルな一品物が、ほとんどのバザール商品で普通のお店ではちよつと買えないものばかり。京都や大阪からのゲスト出品もありますヨ。例えば、アトリエ、"ギャルソンヌ"のサマール・ベスト・ニット。"ボンボニユエル"の綿レースの帽子。虹色のバッグ。"パンピンパイ"のブラウス・白いフリルのエプロン、皮ザイフ・紙粘土のリング。"アル"の一つ目小僧の洋服・きりん堂のアーミーパッチ。古賀佐和子さんと安田信子さんの彫金の大きなバラの花のブローチやリング。"ドロ"のシルクスクリーン染めのボエムクッション。浜田清君の"あした天気になあれ"のとてもかわいいイラスト。沢村佐知子さんの皮染めのサイフと指輪。何にでも使えるプレートはドウリウムステンドグラス。レディ・バードの皮の洋服やバッグやいろいろ。それに、ミニコミ誌月光仮面・ザマガジン・etc。岡田淳君のイラスト本。個人的ピラミッドへの挑戦"アングラポスター"など。いつもグリーンアップルズページに協力してくれてる人々のストリート。あなたもお気に入りのオリジナル商品をさがして、グリーンアップルズの仲間入りして下さい。

噴水前で催されるアトリエギャルソンヌとボンボニユエールのカーニバルファッションショーもぜひ見るべしです。

● バザール

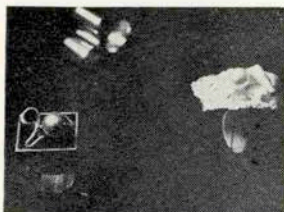
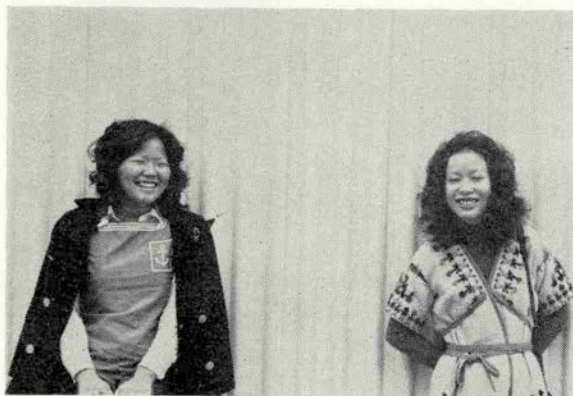
5月21日(土) PM 12:00 ~ PM 9:00

22日(日) PM 10:00 ~ PM 9:00

場所/フラワーロード 噴水広場の一角

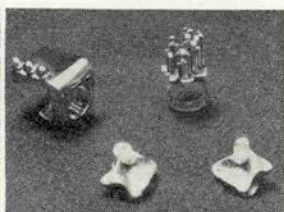
DREAMER

彫金のアクセサリー



安田信子さん

(神戸女学院卒 23歳)



古賀佐和子さん

(甲南大学卒 22歳)

いつも自分なりのファッションで現われるこの2人。ショッピングも遊びに行くのもたえずいっしょで誰かに言わせるとこの2人を別々に紹介することは考えられないとのこと。芦屋のジュリー教室で彫金を習っている。安田さんは人間味のある雰囲気、時にはとても大胆で大胆な作品をつくる。スタイリストな古賀さんはクールなイメージ。機械を思わせる。そして繊細。スプーンの1点もの。大きなプレストレット。壁飾りなど新しいアイデアを展開しています。 連絡先 TEL 441・3078 古賀方

●オームの「アル」が主人です

雨が降ったある日、石の坂道にピンク色の桜の花びらがひかっていた。北野町・サッスンアパートの白い洋館の扉をあけると赤い長靴風のブーツにチュウツクのスモッキングワンピースを脚立にあがって飾っている男性一人。今スバゲッティゆでてます。いっしょに食べませんか。と奥で男性の声。主人ですと紹介されたのは「アル」というオウム。一つ目小僧という東京のブランドのローリングトエイテイ風なブラウスやワンピースがアンティークなトランクのなかにいっぱい。

5月の初旬にオープンする

「アル」は京都のジャズ喫茶カルコを経営していた阿部直樹さんが大西つとむさんと共にはじめたサロン風なトータルファッションの店。白い洋館の応接間でお茶をのみながらお天気の会話から始まるお喋りをしましう。

ロックや特大ポスター付録つき。一〇〇円で定期購読は二〇〇円。ロックを中心にした新しい状態機関となる様子。神戸での販売は神戸ブックス、イカロス書房・日東館・神戸ヤマハ・NG・ソウルイン・ボッサ。ガジン編集室吹田市南高浜町19の6 キヌヤビル3F TEL (06) 381・1258

●街で見かけたロックの新聞

今ではめずらしい新聞型のミニコミ誌「ザ・マガジン」は、「ロッククライミング序説」ロックを動かす人々をたずねてみるのだ」が第一号の特集。三上寛のインタビューもある。2号目は、頭脳警察の特集。森英次さんのイラストレーションによる

●催しもの案内

ジャズワークショップ
渡辺貞夫セクステット
川崎良クインテット
同志社大学モダンジャズグループ
5月2日(火) PM6:00
国際会館チケットS12
00円 A1000円 B8
00円 企画/MAW TE
L411・6077

■MAD IN JAPAN
フラワートラベリンバンド
(内田裕也と麻生レミ)

5月28日(日)
AM11:00~PM5:00
前売500円 当日600円
芦屋川上流(阪急芦屋川北へ8分)
企画/ASHIYA・BOW
連絡先/0797・22・3835

■呪術音楽劇邪宗門

5月29日(月) 30日(火)
PM6:30
前売600円 当日800円
大阪サンケイホール
企画/天井棧敷
出演/新高恵子・蘭妖子他
連絡先/06・341・3114
林静一画のポスタープレゼント
5名様編集室グリーンアップルズベージ保まで。締切5月末日

ぴっと・いん



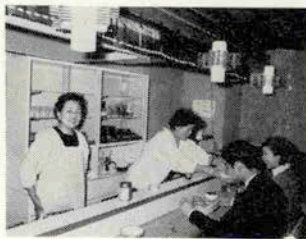
★マキシで十四周年のS

四月三日四日、十四周年を迎えたクラブS（福島里子さん）が、恒例の記念パーティを開き、十月に改築される新しいS&Fビルの完成をめざして、浜側の永見ビル二階に移転オープンした。十四年間、ガラス張りのクラブとして生田新道で親しまれたクラブだけに、まよならパーティは全員、マキシドレスで大サービス。

新しいビルは一階はウインドー、二・三階がクラブ地下がパブで、根津設計事務所のデザインだ。

★ラーメンの竜潭ご存知？

元町駅南筋の「竜潭そば」が都市計画のため移転。三



ラーメンとおばちゃんがいい店

月二十一日生田区北長狭通

三丁目九サンセットビル一

F(321)一八三に新しく開

店。ラーメンファンを喜ば

せている。ラーメン・ワン

タン(一五〇円)で、ラン

チタイムにはご飯付ラーメ

ン二〇〇円で、夜は、揚げ

ワンタンや家庭料理で安く

一パイと、きこしめす人も

多い。気さくなおばちゃん

(杉本宇野子)とハンサムな

息子さんに女の子という気

軽な店だ。

11・30 2・00PM 5・00

★十五周年と銀婚式と

JBAの神戸支部長柳ヶ

瀬康治さんが、山本通のお

店YANAGASEの十五

周年と、奥さんの美智子さ

んと銀婚式も迎えること

になり、四月七日午後四時

三〇分から記念パーティを

開いた。元永定正や小松益

喜の絵がある落ちついた雰

囲気のこの店もこの日は、

常連客やJBA会員が集

りにぎやかな宵いだった。

★いい感じガスライト

外人客が多くて、ピアノ

の廻りで飲ませてくれる

「ガスライト」(元山本通)

が去年の十一月から加納町

三丁目一番地の元オールド

ブラウン後へ移転したのを

知ってる？

この新しいガスライトは

朝四時半迄やってるので、

最近、若い人や外人の人氣

集めている。カントリーウ

エスターンスタイルの古め

かしい雰囲気、元の店より

倍は広くっていい感じ。

火・水・金はジムの弾き

語り、毎晩はベースとピア

ノが入ってる。午前九時か

ら午前四時三〇分迄日曜の

み午後6〜12時(第三日曜

休み)ヒルはお茶と軽食で

ピラフやスーヴも案外いけ

る。ジュース・コーラ(二

〇〇円)ビール(二〇〇円)

電話(二四一)七七二四。

●神戸のうまいも

んとドリンキング

イタリア料理

ベルゲン

中山手YMC A一〇〇m東二階

TEL(三九)五八三〇

AM12時〜PM12時

本場仕込みのイタリア

料理店「ベルゲン」が、

中山手通YMC A一〇〇

m東浜側二階に出来た。

安田義男さん(三〇〇)

育子さん(二七)の若夫



婦が、イタリアへ料理の

武者修業にでて二年。

その腕とサービスをふ

りてくれる食通には嬉

しい店だ。

ワイン飲みながらロマ

ーナ(子牛と生ハムの積

み重ね六〇〇円)やカネ

ロニ、ラサニエ(四五〇)

をたべてもいいし、フル

コースも一五〇〇円と安

い。一人前づつ手打ちの

ピザをやいてくれるが味

はバツグン(四〇〇円)

後でのじき茶(一〇〇円)

を味わうと香り高い。

ビヤガーデン 5月1日オープン



〈北欧ヴァイキング料理〉

2000円〈税込み〉

飲みほうだい (サントリー純生ビール クラウン・コーラ) + 食べほうだい

一品料理、日本酒も準備いたしております

同窓会など各種パーティにご利用頂けるお部屋もございます。



なごやかなムード

すばらしい眺望!

スカイサントリー

三宮交通センタービル9F TEL.(391)3705~6



アサヒビール 特約代理店

● お酒の殿堂

酒類調味食品問屋

⑧ 神戸酒類販売株式会社

本店・生田区中山手通1丁目76

TEL(078)321-0201(代表)

支店・西宮・垂水・兵庫

佐本歯科

小児歯科・一般歯科

診察時間（予約制）

AM 9:00—PM 1:00（受付12:00まで）

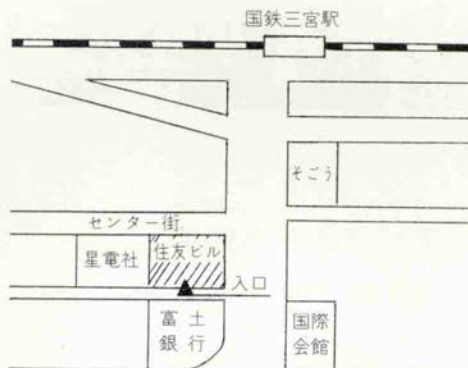
PM 2:00—PM 6:00（受付5:00まで）

（土曜・木曜は午前中）

そごう前センター街東角・さんちか入口

住友銀行三宮ビル6階

TEL(078)331-6302~3



〒650 生田区加納町 5丁目39

こんにちは赤ちゃん



芦屋市親王塚町／町永貴広 君

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科

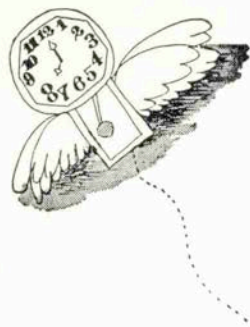


芦屋市大榎町 1番18号

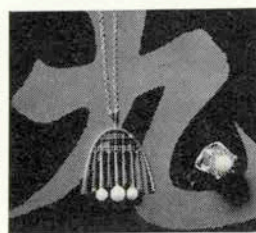
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

神戸百店会 だより



★日本のこころをパールに
ミキモト春の特別展示会
が四月十二日・十三日の両
日、大阪ロイヤルホテルで
十四日・十五日の両日神戸
オリエンタルホテルで催さ
れた。今回のテーマは「日
本のこころ、日本のかたち」
という純日本のなまもの。私
たちが受けた大いなる



日本のかたちを真珠に

美の遺産へ目を向け、精緻
なミキモトの技術によって
宝石装身具の上に表現して
みたというだけあってその
作品は、日本人の心にじん
わりと入ってくる。
ブローチ、ネックレス、
指輪をはじめとし、(ブロー
チ 若竹四五〇、〇〇〇円、
四季山水一三〇、〇〇〇円、
ペンダント 織姫三八〇、

〇〇〇円、四ツ目髹一〇、
〇〇〇円)ドレスバッグ、
カフス釦にいたるまでデー
マに基づいた作品がぞろり
と揃っていた。私達に日本
の美しさを再認識させた。
★シヨコラエコレのスイ
ートプレゼント
この程、本高砂屋で、祝
い祝いプレゼントが実施
されました。これは、新発
売、まろやかさをチョコで
くるんだシヨコラエコレを
を、お祝いごとのある方に
本高砂屋がお客様に代って
プレゼントするというもの
の。三月十五日から募集し
た希望者の中から三〇〇名
に抽せん、シヨコラエコレ
ルセが発送される。
また、五月五日の子供の
日には農
業会館へ
親子一五
〇組(三
〇〇名)
を招待
し、第一
回「本高
砂屋母と

新製品シヨコラエコレセ



子の集い」を催し、ウォー
ルト・デイズニーのピノキオ
や豆象武勇伝を上映すると
か。これからも、こういう
催しをどしどしするとのこ
と。皆さんも見落さないよ
うに気をつけてください。
★元町ドンクが
「ブローニュー」に



オールガラス張りのブローニュー

元町ドンクが四月二日に
新装開店し、ブローニュー
と改名しました。三月四日
から工事にかり一カ月後
に誕生したブローニューは
オールガラス張り、白で
統一された店内は清潔で開
放的。春の花に色どられた
ガーデンパターも青空が仰
げ、とても素敵。家族連
れ、学生、ビジネスマンで
賑わう元町ブローニューで
は、ビール・一五〇円、コ
ーヒー・紅茶・一二〇円。子
供の日には、キャンディー
を、そして、父の日や女性
の日も作ってなにかすると
か。今までの喫茶店の雰囲
気を打破して、皆さんのブ
ローニューにしたいとのこ
と。AM9:00~PM8:00
まで営業。

●シヨップトピックス

★センター街の呉服のちんがら屋
が、四月十一日・十六日当店一・
二階サロンにおいて、ひととき
ものと番の会を開きました。
夏の新作品のうさず。すか
り夏の香りが漂っていました。
★夏びきコーヒーマン専門店として知
られているUCCカフエメルカ
ド本社店(神戸駅前)に、非常に
凝ったコーヒーマンが誕生し
ました。世界各地からの珍しい
コーヒーマンやコーヒーマン豆を眺め
ながら、バリ、ニューヨーク、各
国の風味を盛り込んだコーヒーマン
味わうのもおつまみものです。
★端午の節句に備えて、おかし
のヒロタでは、カブトチョコ、〇
〇〇円を売り出しました。チョコ
レート製のこのカブトはケル
スに入っていて、子供部屋にも飾れま
す。今頃だと二週間はもつそう
です。その他、ネルこいのぼり、武
者人形などもあり、キャンデー
入ります。
★大丸前の装苑が四月二十八日か
ら一階へお店を移しました。パ
ズグ他装身具や既製品のコーナーを
設けました。今までのオーダーと
共にどうぞよろしく。
★おもちのカメラに固地住い用
のこいのぼりを売っています。黒
熊・赤熊・吹流しと矢車と長さの
自由になるスチールのボール付き
です。お値段は四、八〇〇円とお
手ごろ。いかがですか。
★神戸ナショナルショールーム
(神戸市生田町京町七番地)二
階の改修工事もようやく済み、四
月十一日に新装オープンしまし
た。今回の二階の改修は、現代に
相応しい若さ溢れるものに、全
面オーブンスタイルにし、踊りに
新機軸に、若者の殿堂として
新しく生まれ変わりました。皆さまも
一度どうぞ。
★ハンドバックのシラサの電話番
号が(078) 321・0801・2に変更
しました。

ポケットジャーナル



★市民コンサートで 普段着の芸術を

だれでもが参加できるコンサートが、今月から毎月定期的に開かれる。

このコンサート、第一回は五月二十五日、以後は毎月第四火曜に海員会館の市民小ホールで定例開催される。その名は、へあなたも参加する市民コンサート。更に春秋二回程度の野外発表会も企画されているが、出場者はアマチュアに限られ出演には無報酬、もちろん入場は無料。演奏のジャンルはジャズ、フォーク、クラシックオーケストラ、コーラス、プラスバンド、邦楽合奏などで、毎月末に出演申し込みを締め切る。

主催は、神戸市。大都市としては珍しいこのプランおたがいの手で盛り上げていきたいもの。

★劇団神戸第五回公演 むかし海ミドリムシ

昭和45年に発足以来、劇団という枠にとらわれず地

元に根ざしたオリジナル作品を手がけている劇団「神戸」が、これも地元にあつてユニークな詩活動をつづける、安水稔和氏の「むかし海ミドリムシ」をとりあげ5月21日、明石市民会館、23日、神戸海員会館市民小ホール、26日、芦屋ルナ・ホールで公演する。



むかし海ミドリムシ第1回打ち合せ

原作は安水氏が「海の蝶」、「岩の花」、「波の上」の三部作を基に、舞台のために書き改めたもので、人間の存在の原点を鋭く衝いた作品。機智とユーモアを交え、明快で平易な語り口は難解さや独善を排した清新

なもの。上演に際しては、中西勝氏をはじめ各文化界の協力の下、トータルシアターとしての可能性を探るという新しい意義をも持つ。

演出・津山啓二、美術・中西勝、板矢真紀、音楽・鈴木洗、照明・松永宏、効果・飛田博行、衣装・藤本ハルミ、振付・花柳芳恵一子、上月倫子、村上タケシ、琵琶・柴田旭堂、舞台監督・井崎雄、制作・浜田義則、李敬司、岡田美代、キヤス・劇団「兵芸」、「ふおるむ」、「漁火」、「くさび」、神戸プロムジカアンサンブル、夏目俊二、森秀人、小倉啓子、花柳芳恵一子、藤間緑寿郎、上月倫子、後援・県教委、明石、神戸芦屋の各市教委、明石市民会館友の会、劇団神戸芦屋友の会、協賛・大西パーキング

★神戸シーメンズクラブ オープン

神戸港の表玄関、第四突堤ポートターミナルビル三階に、このほど神戸港に立ち寄る外国人船員を対象にした「神戸シーメンズクラブ」がオープンした。外ラフルな応接ソファ、外国新聞、雑誌、各種パンフレットなどが完備され、郵便物の発送サービスや観光案内もある外国船員の憩いの場。コウペには年間一万隻近い外国船が入出港する

誕生日 ありがとう 運動



七周年ご支援感謝!!

本運動は、五月八日で七周年を迎えます。昭和四十年五月八日に神戸市長田区室内小学校の特殊学級で発足した運動です。

運動の小さな灯が、またたく間に広がり、全国各地や遠く海外にまで愛の輪が広がってきました。これも長年にわたってご支援いただく地元の神戸っ子をはじめ、全国のみなさんのお陰です。厚くお礼を申しあげます。

本運動は、みなさんご承知のように、精神薄弱問題の啓発運動です。七年間の歩みをふりかえりその啓発活動は緒についたばかりであり、前途遠慮です。この七年間いろいろな啓発活動をしてきましたが現在、中学・高校の保健体育の教科書に書かれている「精神薄弱」の項の改訂の働きかけをしています。

みなさん今後毎年一度めぐってくる誕生日には、この運動のことを思いだして、精神薄弱問題について考えてください。

なお、運動発足の当初より、毎月かかさず紙面をさいてご協力いただいた「神戸っ子福集室」に、紙上をかり七周年を機会に、みなさんと共に感謝いたします。

★誕生日ありがとう運動本部
神戸市其谷区御幸通八の九の一
神戸国際会館一階の郵便局の前
電話二五一八六一(内線二五八)



現代にマッチする合理的な和裁方法

が、一般外国船員の休憩、娯楽施設はほとんどない。このため、神戸市が、各国シイメンの交流の場として、同ターミナルに「パブリック・シイメンズクラブ」を開き、あきスペースの利用と国際親善の一石二鳥をねらったもので、開設時間は午前十時―午後六時。日曜日は休み。

★きものに弱い現代っ子に合理的な「和裁教室」
今まで国際会館でもの着付け教室を開いていた高井敏子さんが、この程ボーリング場・神戸スタレー



ポートターミナルにオープンしたシイメンズクラブ

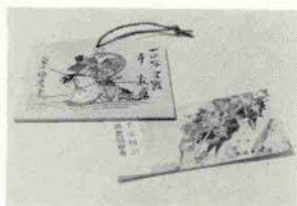
源平史跡展を、観光リフ

★須磨浦に源平史跡をみる
平家物語須磨回遊券
平家ゆかりの一の谷戰場と須磨寺をたずねる「平家物語」須磨引回遊券が山陽電車から発売されている。コースは須磨浦公園駅―山上回遊―須磨寺というもので、山上へはロープウェイとカーレータで展望閣

ン4階(321・1954)において「現代和裁教室」を開かれきものブームにのって好評ノ月・水の両日昼の部(PM1:00~PM3:30)夜の部(P.M6:00P.M8:00)が行なわれ夜の部は特に19歳/25歳位までの若い方が圧倒的とか。「従来のきものもち味を生かしながら、現代の感覚に合わせた合理的な和裁方法で月本国内といわず外国の方にもぜひ気軽に着物を着ていただきたいと願っています」と先生は語った。その上、体型に応じての仕立でも教えてもらえる。初心者、浴衣から長襦袢・肌襦袢の段階を踏んで現代和裁に入っていく。

業所、十二駅で発売。
★愛猫「おふく」ちゃんを追憶集出版される
三月二日、中学校教諭福田忠次さん(64)によって愛猫の追憶集が出版された。英訳も含む三二頁ほどの愛情こもった可愛らしい本・猫御殿にとり残され、おふくちゃんに子・孫の如く可愛がられたハチ、しろ、サム、チェリーの「おふくを偲ぶ追憶の文や、彼女の様々な姿をとらえた「若き日のおふく」「ある日のおふく」などの十数枚の写真を掲載

トで山上遊苑の源平合戦野
外パノラマ展を見たあと、ドレミファ噴水パレスというコース。そして須磨寺では特別宝物展を拝観して、平敦盛絵馬がプレゼントされる。



プレゼントの絵馬と回遊券

この一の谷パック、料金は、大人九百円、小人五百七十円で、これに乗車駅からの運賃が加算され、十一月十二日まで、山陽交通社本社(611 2001)他、五

美術ガイド



★兵庫県立近代美術館

青山熊治 没後四十年記念

ウィーン幻想絵画展 4/22/5/14

★そごう六階画廊

江田誠郎油絵展 4/28/5/5

中尾淳日本画展 5/5/5/5

山本大慈日本画展 5/12/5/17

坂本益夫油絵個人展 5/10/3

山平義正日本画展 5/26/19/5/31

★新光ギャラリー

朝鮮金石・茶碗展 4/30/5/28

★KCCギャラリー

第5回兵庫県写真家協会公募展

みどり会書展 5/5/5/5

浜川卓己個展 5/27/20/13/5/5

★安田画廊

地上社展 5/5/5/5

松美会展 5/9/9/5/5

グルーブ協洋画展 5/23/16/11/5/5

うどの会展 5/5/5/5

★白鶴美術館

中国古陶磁展 5/4/29/5/31

★南蛮美術館

紅毛美術展 5/4/29/5/25

★さんちか広場ギャラリー

神戸姉妹港展 5/18/5/23

モニュメント・エスキズ展 5/25/5/30

★三愛さんちかホームギャラリー

智念正文館展 5/5/3/5/9

書作三人展 5/11/5/5

★八回龍美展 5/18/5/23

★大丸百貨店主陸美術画廊

京の中華堂展 第一週

現代の有名大家・日本画・洋画展 第二週

北村西望ブロンズと書・沢田政広 第三週

片野元彦・横綱展 第四週

★元町画廊

第2回元町画廊 5/22/5/28

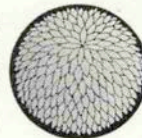


若き日の「おふく」

昭和三十八年、迷猫として福田家を訪れ、猫御殿において「おばばさま」と慕われ皆に可愛がられたおふくちゃん。去年十二月二日の世を去り、翌三日、二年前に亡くなったビビの眠る隣に埋葬された。おふくは福田さんが発行する「ねこ通信」で毎回巻頭言を書き、愛好家達にはおなじみだった。そして、福田さんは彼女の冥福を祈って自宅裏庭に「ねこ」塚をたてた。そのまわりには春の花が咲いていることだろう。

★あなたの家紋は？

特殊アルミ合金をはじめ込んだ、手書き家紋が四月から本格的に売り出された。考案者は、竹内可充氏(2513048アド・セクター)で、去年の家紋ブームの頃に着目、商品化に非常



品化に非常に苦労したとのこと。家紋のみならず社章もあり、お家や、会社のシンボルマークにご利用下さいとのこと。

★岡山のガイドブック「吉備路」発行される

新幹線で、神戸から四十二分。岡山がにわかにクロイブアップされている。保育社カラーブックス「吉備路」岡山・倉敷と

言葉が影をひそめてきた。兵庫県も神戸市も文化行政に積極的である。兵庫県は近代美術館で成果をあげ、県の芸術祭行事も巾を広げている。県庁舎内のホールも小劇場として解放して好評である。

市側も在来の海員会館ホールを小劇場として改装。大倉山に大ホールと中ホールのある中央公会堂を建設中である。特に、宮崎市長は大倉山一帯を文化ゾーンとし

古典芸能の殿堂
神戸能楽殿誕生
神戸には文化施設が少ないということは戦後から二十数年間にわたってひとつのあきらめに似た感じで話されてきた。しかし、宮崎市長となり坂井知事となつてその

花時計



その周辺一帯は、その好ガイド著者宮崎修二朗氏は神戸新聞社に勤務する一方、これまで文学、民俗学、旅行など二十余冊を著わしているが、今回ののはしがきで、「初めて突入する余暇時代に、どのような姿勢を整えたらいいだろう。終始そんなことを考えながら吉備路の旅をつづけたつもりである。」と述べられるように、鋭い目で風俗、文学を歴史をまじえてみつめている。

(定価・二八〇円)



表紙は倉敷考古館

て計画しているという。その中心地点は神戸っ子には馴染深い湊川神社である。

その境内に日本の古典芸能を代表する能楽の場として能楽殿が完成落成する。

勿論、兵庫県、神戸市、地元財界が協力し、能楽関係者が力をあわせて完成を見たということだ。文化地帯の中央に伝統芸能の殿堂があるというのは頼もしい限りである。

KOBE POST

★美術美術協会は、吉原治良氏(代表)の指導のもとに、新しい美術の追求を、昭和三十年発足以来十七年間続けてきましたが、吉原治良氏の急逝という試練の場に立ち、このほど全員一致で三月三十一日をもって解散いたします。具体美術の精神的遺産を受けついでそれぞれの場で制作に励みますのでよろしく、具体美術協会(大阪府北区宗室一丁目一六ビル別館)よりご挨拶がありました。グタイミニビナコデカもGUTAI 55・72十七年の記録を四月十日と二〇日まで展覧し、終了と同時に閉鎖されます。新しい美術の旗手としての永いグループ活動よりは惜しみてもありあることで

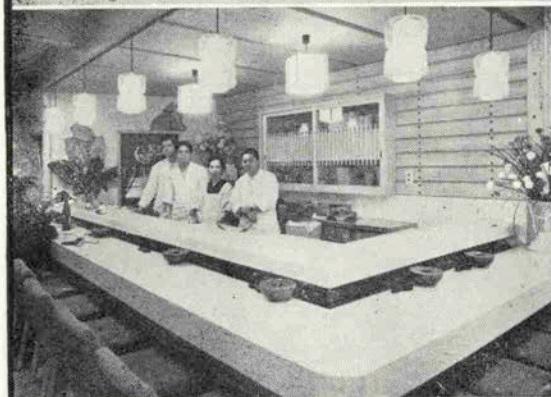
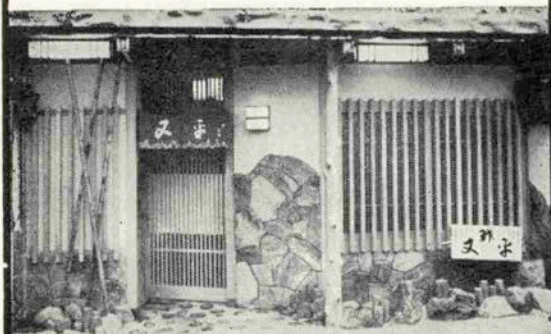
★本誌の表紙絵でおなじみの小磯良平画伯が、仕事場改造のため一時マンションへ転居すると通知がありました。転居先は、東灘区住吉町丸山御影ランド・ハイウヰ三十四一(電話・(06)六〇九五)★日本経済新聞社神戸支局が、四月五日生田区に新築移転しました。

移転新住所は、神戸市生田区中山手通6-6(電話・三七一三三八)と、支局長の高村信夫さんからご通知がありました。

★三愛の企画室の高木昌太さんは四月東京三愛に転勤されました。★読売新聞神戸支局長の井形さんは大阪本社へ転勤され、新しく常陸神戸支局長が着任されました。

★朝日新聞神戸支局の酒井記者は三月鳥取支局へ転勤されました。

ゆったりと落ち着いたスペースで
新しい“味”をご賞味ください。



又平 鮓

神戸三宮生田ノ社ノ西
電話・三の宮 (331) 0935



おいしさが
口いっぱい
ひろがる……
本場の味



又平

- 三宮センター街柳筋店
TEL 321-3446・331-0572
- 新開地店
TEL 576-1191
- 平野店（平野市場内）
TEL 361-0821
- 三宮センター街サンプラザビルB₁
TEL 391-3793

—オリジナル L サイズ—

—草履新発売—

創業明治二十八年

履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸三宮センター街 TEL(391)0256



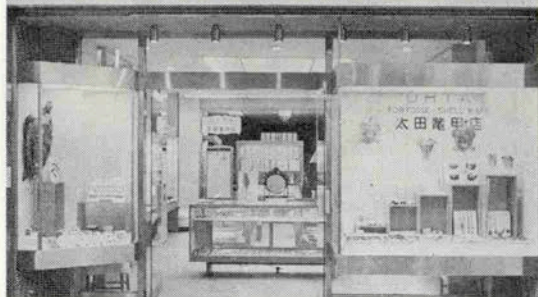
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

GREEN KOBE SHOPPING

太田鼈甲店



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195



五月人形

.....カメラで
すこやかにたくましく



三宮方面でのお買物は……
さんちが店 ファミリータウン
三宮店 三宮センター街山側
元町方面でのお買物は……
元町店 元町通3丁目山側
パンフ店 三町通1丁目不二家前
330 009 0
330 076 8

おもちゃの
カメヤ

やっぱりうまい
むさしのとんかつ

とんかつ

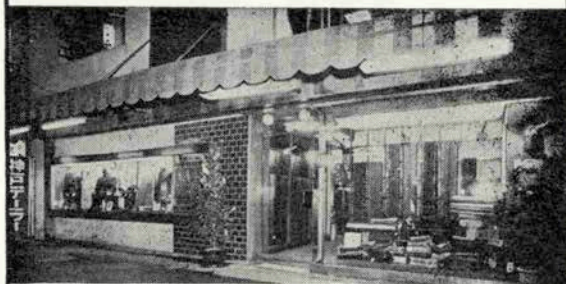
コベ三宮
ムサシ

でんわ・

321 321 331 — 三三七七
— 〇六三四
— 〇六三五

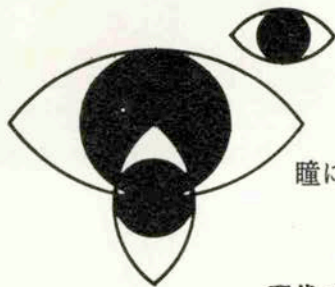
高級紳士服専門店

神戸テラー



さんちかメンズタウン TEL (391) 0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL (331) 2817・3173

GREEN KOBE SHOPPING



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL (251) 8161・(231) 2570

おすし
てんぷら



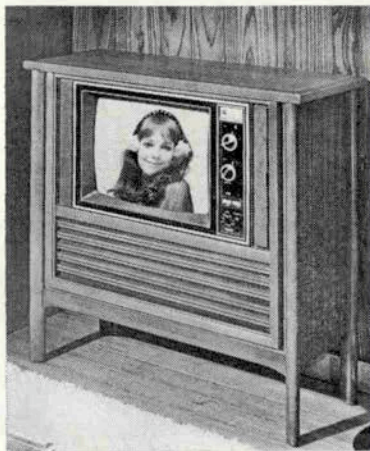
栄
彌



本店 大丸前・三宮神社東
TEL (331) 5673・4
(毎週水曜日休み)
支店 さんちか味ののれん街
TEL (391) 5233
(第3水曜日休み)

営業時間
A.M. 11.30 ~ P.M. 9.00

電気器具の粋をあつめました



元町家電(株)

神戸市生田区元町通 6 丁目 25
TEL (078) 351-0081



バラの季節にさえる

パールをお届けします

北村真珠店

元町通 2 丁目 60 TEL. 331-0072

フラメンコの店
ブルーリボン

加納町3丁目交差点西1丁上ル
TEL231-6378



情熱のフラメンコ!

神戸の山手、加納町にフラメンコの店、ブルーリボンがある。ドアをあけると情熱的なカスタネットをかき鳴らす音が耳にはいり、マスターのギター伴奏で情熱のフラメンコ舞踊が見られます。それは月曜日と土曜日の夜、7:30、9:00、10:00の週6回。

のみ物は、スペインのセリー酒(ワイン)、軽食としてトルテージャ(オムレツ)など、いろいろあります。

6月1日で15周年をむかえるこの店は、安心して気軽に行ける楽しいところ。

セリー酒 ¥ 300、トルテージャ ¥ 350

営業時間 PM6:00-PM12:00 (第三日曜は休み)



DRINKING

Snack & Drink

ビギン

北長狭通3丁目9 サンセットビル地下
TEL321-0953



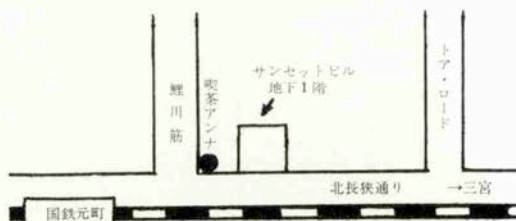
国鉄元町駅を北側へ降りて少し東、サンセットビルの地下一階にちいちゃなお店が4つ。中でもいちばんカワイイ、まっしろなドアにビギンと書いてあります。そのドアをあけると、この3月にオープンしたばかりのあなたのプライベートスナック、ビギンなのです。

どちらかといえばヤリクリの苦しい、学生のキミや、若いサラリーマンのボクが気楽にはいて、安心して楽しい時をすごしてもらおうとはじめられたのです。

ですから、カウンターのむこうもこちらも若さでいっぱい。今夜は、まずビギンからはじめてみたら……。

営業時間 PM6:00-PM12:00 ビール ¥ 250

(日曜、祭日は休み)



キリシタンの墓

小山 牧子

え・石阪 春生

燃える海 断章 4

あらずし 二年前短期大学を卒業した佳は、母であり、歌人である蘭子との生活に息づまりを感じ、米国系海運会社のエージェンツに勤めに出ることにした。ある日佳は顯成寺の墓地の暗がりであつた村重船長と名の老人から、自分の父村林裕作の過去を知る。その父が久しぶりに航海を終えて神戸に帰ってくるが、蘭子の冷たい態度に佳の心は複雑だつた。そんなある日、佳は蘭子の短歌が新聞に載っているのを見つけるが、まさしくそれは裕作の初恋の女性、故由佳子の短歌の盗作であつた。思いあまつた佳は歌話「せせらぎ」主幹に密訴の手紙を書く。そして主幹の怒りにふれた蘭子は完全に短歌界から扶救されることになつた。その後の蘭子は正気を失つたように館の一室にとじこもるようになり、ある日突然姿を消し、塩屋沖でその死体が見つかる。苦悩する佳。父との対語。

「ケイのママは、そんな風に傷つくことを恐れ、自分の穴に逃げ込んでゐる男のずるさに気づかず、私がただ由佳子を忘れかねているものと、何年もおもひ込んで過ごしていた。そして、常に一定の距離を保って、妻を自分の世界に踏み込ませようとしない私に、細やかな愛情を傾けてくれたのだよ」

追憶を語る裕作の顔に、痛恨の色が刻まれている。

「ママは忍耐強く、そして限りなく優しくあつた。閉じてゐる私の心が献身によつて開かれ、いつか自分の力で私の心から由佳子の残像を追ひ払つてしまえるものと、ママはおもつていたのだらう。ママは、道端で拾われた雑種の飼犬でもそれほどではあるまいとおもえるほど、卑屈な、おどおどとした目で私の顔色をうかがいながら、



H・ISHI

何年もこの館で暮らしていた。だけど、あの頃のママは、決つて暗い顔はしていなかつた。希望があつたのだもの。独占欲の強い女^{おんな}だつたから、私の心を自分ひとりのものに縛りつけておきたいと望むのも無理はないとおもうよ。だけど、私はママがそう望んだ分だけ、ママから遠ざかつて生きようとして、必死に死んだ由佳子の残像を抱きしめていたのだ。航海を終えた私が最初に行く所は決まつて亡き由佳子の老父が住んでいる古寺の一室だつた」

「わたしにはわからない。そんなママがどうして……」

「最初から燃えることのあまりなかつた私達だつたけれど、子宝には恵まれた。それがケイ、お前だよ。生命の芽を胎内に宿し、月みちるまでのママはしあわせそうだ

った。二人の間に子供ができたなら、それを切れぬ絆にして、私の胸から由佳子を追いつくことができる。ママはそう信じていたのだらう。しかし私はママのいじらしい望みを踏みにじり、生まれたお前に由佳子の名にある一字をとって、佳と名づけた。理由は、そう……私の決意というか、現実の男と女の愛や葛藤から遠ざかり、抽象の世界に生きぬこうとする決意を、ケイ、私は、生まれただけのお前という素材に刻んだのだ」

「可哀そうなママ……」

暮色に包まれてゆく戸外の影たちのすべてが部屋をかざらせ、佳の胸に倒れかかってくる。そして、影は佳の内部で言いようのない悲哀の情と溶けあつた。

「ママは悲しかっただろうけれど、顔に出すということとはなかった……」

裕作は続ける。

「しかし、私に対する執着からは、つきものが落ちたように解放されたのだらう。ケイが生まれた翌年、ママは誤りを犯した。その頃、再び短歌の昔の仲間と交流はじめていたママは、私の留守中に会の若い男と愛しあつてしまったのだ。勿論、航海から帰った私は優しくママを許した。そして、そんなふうにママを許したことで、私は結婚してから守り続けた自分の生活態度を肯定した。特殊な家庭生活を強いられる船乗りという立場から、人を愛し過ぎて傷つくことを避けるための自己防衛的な本能——。そのエゴイズムが、ママをどれほど傷つけたことか。ママは一途な性格の女だった。倫理性の強さにおいても並の女以上のものを持っていた。だから、自分の生涯をゆだねようと短歌の筆を折ってまで結婚した私以外のどの男も本当には愛せないことを、自分でよくわかっていただよ。だから、最初の誤ちは、絶望しながらも、なおかつ私に一縷の望みをつなぐ女心のあがきだったのだと私はおもう。もしあのとき、私がママに怒りをたたきつけ、その頬を打ちする激しい行為にでていたら、それ以後のママの人生は変わっていただらう。私の

愛を由佳子から自分にむかわせることを断念したママはがむしゃらに歌を作りはじめた。そして、孤独な女が体当たり的に書く歌は、次第に世の評価を得るようになっていった」

裕作の顔は、いつか暗い影に包まれていた。闇の中で、彫りの深い顔が更に凸凹をきわ立たせている。鼻梁は枯れた山のように、そのかげにある頬は陥没したようにそびえている。五十年近くを生きて、由佳子と蘭子という二人の女を共にしあわせにすることができなかった孤独な男の顔——。己れを守りすぎて受けた傷と、人を愛し過ぎて裏切られ、復讐の刃をといで受けた傷とは、前者から受ける傷の方がはるかに陰微で心に残ることを、裕作は知つただらうか。己れを醜悪なエゴイストとして責める声は、生ある限り裕作を撃ち上げるだらう。

「でもパパ、なぜ？ それ以後のママの乱行はどうしてなの？」

「女流歌人として世にみとめられてからのママの恋愛沙汰のすべては、ママの演技に過ぎなかったとパパは見ているよ。歌の世界にもあるのだらうか。本当に他人を感動させることができる愛の歌を詠むためには、歌よみ自体が恋愛をして、女流歌人ならば奔放に男に溺れなければならぬといった芸術家たちの愚劣な経験主義に毒されて、ママは男遍歴をはじめたのだらうよ。だけど、パパが知っているママは、決してそれほど淫らな女ではない。私にむかつてあふれ出る愛を拒まれたママは、歌の世界で虚名をあげようとふるい立った。そのための演技であつたし、自己催眠でもあったのだらう……」

「可哀そうなママ、さぞかし淋しかったでしょう」
いつか佳は、裕作の足もとに身をくずし、両方の腕で膝頭をかかえ込み、頭を垂れて父の話を聞き入っていた。

——悪いのはパパだったのだ。パパがママを冷たく突き放していたから、ママは短歌というへんなものに気狂いじみた打ち込み方をしてしまったんだ。だけど、どうして

それほどまでに心が通い合わなかったのだろう。

父もいつているように、それには裕作が船乗りであるという特殊な生活環境が大きな原因になっているだろう。一つ家で四、六時中、顔を突き合わせて暮らしている並の夫婦ならば、現実の塵芥にまみれあい、日常生活の喜びや悲しみ、怒りを相手にたたきつけあいながら、次第にお互いを家の中に昔から置かれていた古い家具か、よどんだ空気のような存在に代えてゆく。愛だとか献身だとかといった言葉を聞くものなら歯の浮くようなむずがゆさを感じてしまう一般の家庭にくらべ、夫が留守がちの家庭では、夫婦の間が新鮮なままに続く、ということとは、愛とか、それと裏返しの位置にある不信、疑惑、自己愛などが、いつまでも生き残ってその存在を主張する。悪く表現するならば青いまま、成熟しないということであろうか。そして蘭子は、船乗りを夫にもついびつな家庭の形と、それゆえに極端な自己愛の鎧で身を守る夫の犠牲になったのではなかったか。

「可哀そうなママ……。裏切られたときのことが恐ろし



くて、ママを素直な気持ちで愛せなかったなんて、そんな子供じみた理屈、わたしには納得できないわ。よほど二人の性格が合わなかったか、パパがひねくれていたかどちらかだともうわ」

「だれだってそうおもうだろう。航海中に奥さんを若い自堕落な男に奪われた由佳子の父親の苦悩を目のあたりに見たのでなければ、そして私があの人をどれほど敬慕していたかを知らないならば……。私は戦艦に乗っている間中、いざというときは必ずあの人、由佳子の父のための人柱に立とうと決意していたくらいだったのだから」

「パパもやはり、どうにもならぬことばかり考える男だったのね……」

蘭子の死を知った瞬間からこの日まで一滴の涙もこぼれることがなかった佳の頬を、涙が止めどなく流れ落ちた。蘭子の死のあと、佳は凍る心で母をなじり憎んでいた。なぜ歌の道を閉ざされただけで、母であり妻である女が死んでしまえるのかと……。が、あの道を閉ざされた蘭子には帰るべき暖かい場所などなかったのだ。

「私はケイになんて許しを乞えばいいのか……。
ケイは、いつも家庭をかえりみぬママを憎んでいた。だ
けど、ケイの家によんでいた暗さは、私に原因してい
たのだよ……」

「信じられないわ。なぜそれならそうと……。でもパパ、
本当にわたしという娘まで与えられた二十五年の結婚生
活の間、一度もママをいとおしいとおもったことはない
の？　ずっと由佳子さんのことばかりおもっていたの
？」

「ママにはいつもすまないとはかりおもっていたよ。だ
から、私はママの現実的な欲求、たとえば着物が欲しい
とか、旅行にゆきたいとかといった願いは、全部、寛容
な心でかなえてやった。歌集を自費出版したいといった
ときも大いに励まして費用をだしてやった。そういつた
私の経済面での寛容さが、ママの奔放な生き方に拍車を
かけたんだらうね。そんな冷たい間柄の私達だったんだ
けど、最近になって、私はふとママに今までとは違った
感情を持ちはじめた自分に気がついたんだよ。ケイはど
んな見方をしていたか知らないけれど、すでに明かるみ
に出てしまったママの盗作事件ね、私と一緒にになってか
らもずっと私の胸の内だけにしか住んでいない由佳子と
張りあって過ごしてきたママが、由佳子の歌を盗むなん
てことはよくよくのことなんだ。私は、なぜかそんなマ
マに弱い弱い女の性を見てしまった気がしたんだよ。放
っておけば一人でキリキリ舞いをして分解してしまいそ
うな頼りない女にママが見えた。そして、それからあと
のママの失脚。私は、心の支柱を失って精神までも風化
させてゆくママを、心底からあわれにおもった。こんな
気持になったことは、ママとの生活では、はじめてのこ
と。私は、自分が傷つくことばかりを恐れ、ママに深く
かわかることを避けてきた自分を責め続けたんだよ。下
積みの生活に明け暮れるどんなに貧しい夫婦でも、愛し
あい、相手を束縛しあいながら、夫は妻の内面に、妻は
夫の内面に、人間としてのゆたかさを蓄積させあって年

をとるではないか。だのに、私はママの内面に、私好み
の一本の草花も樹木も植えてやろうとはしなかったの
だ。不毛のままで年令をかきねたあわれなママを見た
とき、私の蒼ざめた内部で何かが変った。私の心にママを
おもう真紅の血が流れはじめたのだ。自分の心ない仕打
ちのために無惨にくじけたこの女のためなら、共に地獄
の苦しみを味っても悔いはない——そう私はおもった。
この無我の気持、それが愛情というものであったのだらう
か。しかし——そうおもったときはすでに遅かった。マ
マは私の手ごとどかぬ遠くへ行ってしまうていた——
——そうだったのか。そうだったのか——

部屋には、すでに闇がまっついていた。その闇の底で裕
作の話が続く間中、佳はすすり泣いていた。そして、佳
はあの夜のことをおもいだしていた。

蘭子の盗作作品が新聞に掲載されたあと、よそよそし
い夫婦の関係を続けていた父が、かつて見せたことのな
いほどに邪悪な酔いに乱れた夜のことを。それにむきあ
う蘭子の冷たさを見て、佳はあの夜、蘭子に怨みを抱き、
蘭子の盗作を密訴した。が、本当は、あの父と母の葛藤
は、二人のために必要な闘いだったのではなかったか。
あのように醜い姿を蘭子の前にさらしながら、父は蒼ざ
めた自分の内部に、妻への憎悪がたぎってくるのを期待
していたのではなかったか。そして、憎悪と裏返しに存
在する激しい愛のうずきき——。

男と女が、そのような形で枯れた心に火を放とうとし
ていたのなら、佳は何を間違って、母に復讐の刃をと
いだのか。

沈黙がきた。黙り込んだ父と、いつまでも激しいすす
り泣きを繰返す佳——。

闇の虚空から、激しい銃弾の音が響き渡る。

——人殺し！　人殺しはお前たちだ！！——と。

どれほどの時間が経ったのだろうか。深夜に近く、漆
黒の闇に閉ざされていた部屋の窓が奇妙なバラ色に染っ
ているのを、裕作がまず気づいた。

(つづく)